



本会名誉会員 金子太吉先生は
平成 29 年 10 月 9 日逝去されました。
謹んで弔意を表します。
日本微生物資源学会

金子太吉先生 御略歴

1. 経歴

昭和 2 年 (1927 年) 1 月 18 日	長野県上田市において出生
昭和 22 年 (1947 年) 3 月	松本高等学校理科乙類卒業
昭和 26 年 (1951 年) 3 月	東京大学農学部農芸化学科卒業
同年 4 月	東京大学大学院農学系研究科入学
昭和 28 年 (1953 年) 9 月	東京大学大学院中退許可
同年 10 月	東京大学応用微生物研究所助手
昭和 34 年 (1959 年) 5 月	理化学研究所所員, その後 11 月に研究員
昭和 44 年 (1969 年) 8 月	同副主任研究員
昭和 58 年 (1983 年) 10 月	同ライフサイエンス培養生物部微生物系統保存室長
昭和 62 年 (1987 年) 3 月	理化学研究所定年退職
平成 元年 (1989 年) 4 月	東京農業大学農学部醸造学科嘱託教授
平成 9 年 (1997 年) 3 月	東京農業大学定年退職
平成 29 年 (2017 年) 10 月 9 日	逝去

2. 学会活動

日本微生物株保存連盟 (現日本微生物資源学会)

昭和 59 年 (1984 年) 幹事

平成 3 年 (1991 年) 監事

微生物化学分類研究会 (現当学会微生物系統分類部会)

昭和 60 年 (1985 年) 第 5 回大会世話人

平成 3 年 (1991 年) 第 11 回大会世話人

金子太吉先生を偲び

Obituary: Dr. Takichi Kaneko (1927-2017)

本学会名誉会員、元理化学研究所副主任研究員・ライフサイエンス培養生物部微生物系統保存室長 金子太吉先生は平成 29 年 (2017 年) 10 月 9 日逝去されました。先生は昭和 58 年 (1983 年)、理化学研究所において設立間もない微生物系統保存施設 (JCM) を担当するライフサイエンス培養生物部の微生物系統保存室長に就任し、3 年 6 ヶ月にわたり、施設の運営を担当されました。また、当学会においては、前身である日本微生物株保存連盟 (JFCC) において幹事を 2 期、監事を 1 期務められました。この間 JCM を日本の中核となるカルチャーコレクションに育て上げ、JFCC の活動においても学会運営に加え、JFCC 菌株目録編集委員長として機関会員コレクションの微生物株情報のデータベース化とカタログ出版では中心的に活動され、日本の微生物系統保存事業のコミュニティに多大の貢献をされました。先生の突然の訃報に接し、大変悲しいことではありますが、ここに先生の生前のご業績を紹介させていただき、会員の皆様とともに先生のご貢献に感謝の気持ちを共有し、ご冥福をお祈りしたいと思います。

ご略歴にありますように、金子先生は、東京大学農学部農芸化学科を卒業され、大学院に進まれましたが、昭和 28 年 (1953 年)、同大学応用微生物研究所設立と同時に助手として着任されました。配属された第一研究部では主任の北原覚雄教授の下、乳酸菌の研究を行い、主に乳酸菌のフェージに関する研究をされてきました。また、火落菌の研究では *Lactobacillus homohiochii* および *L. heterohiochii* の分離から新種発表にいたるまで、主体的に関わられました。

金子先生はその後理化学研究所に移られ、微生物学を取り巻く、さまざまなテーマに関心を持たれ、研究の基盤形成に貢献されました。食酢醸造においては放射性同位元素の測定による合成酢酸と醸造酢の識別法の開発、当時石油タンパクと呼ばれた炭化水素資化性酵母が病原性酵母とは別種であることの DNA レベルでの証明など、時代を反映した興味深い研究成果を発表されてこられました。先生の得意とされていたのは DNA と数値解析でした。DNA については、1970 年代後半には細菌分類学では必須の技術となっていた DNA-DNA 相同性解析を、金子先生は放射性同位元素を用いたメンブランフィルター法をベースに独自に開発されました。前述の酵母の研究に始まり、グルタミン酸生産菌、酢酸菌、*Pseudomonas* 属、*Thiobacillus* 属など、さまざまな微生物について、分類学の研究者が金子先生を頼り、DNA-DNA 交雑実験を行い、成果を上げてきました。日本の微生物分類学への貢献は非常に広い範囲に及びます。

また、金子先生はパソコンが普及する以前からコンピューターによるデータ処理に関心を持たれ、測定データの統計処理などに利用するとともに微生物の数値分類への応用も試みられました。この技術を生かし、昭和 58 年 (1983 年) 移籍直後の JCM では菌株データベースの構築とカタログ出版を主導されました。システムを独自に開発されたので、特にカタログで多用される学名や化学式の入力効率化を考慮したシステムを作ってください、その後急速に増大した収蔵株数へ対応では担当者は大いに助かりました。我々はこれをリスペクトして金子コードと呼んでいました。さらに、JFCC の機関会員の菌株リストをまとめた菌株カタログの出版でも手腕を発揮され、昭和 62 年 (1987 年) の第 4 版、平成 5 年 (1993 年) の第 5 版の出版ではカタログ編集小委員会委員長としての重責を果たされるとともに、構築したデータベースはその後の出版とオンラインカタログの基盤となっています。このように、金子先生は微生物の分類学と系統保存事業における基盤整備において、学会にとどまらずコミュニティに対して他に代えがたい大役を務めてくださいました。

最後に、私事となりますが、私は金子先生には大学院の学生時代からご指導をいただき、その後も JCM でも部下として仕事をご一緒させていただきました。学生時代は予備実験や条件設定などから実験への取り組み方を学びました。金子先生の研究に対する取り組みは大変自由で、一度関心を持たれると、独自の発想をされ、その着眼点と展開は大変勉強になりました。近年、微生物に関連するデータベースは研究の基礎から応用までますます重要となっており、DNA のビッグデータとの連携も必須となっています。そのような中で、当時の金子先生のさまざまな取り組みは、現在の微生物資源管理の方向性を示唆していたと言えます。日本微生物資源学会は金子先生のご業績を核に微生物研究コミュニティの中でそのプレゼンスをいっそう高めていかなければならないと感じております。

(鈴木健一朗)